

令和3年度 事業実績報告書

社会福祉法人 窓 ふじの子保育園

1. 園児の確保

(1) 園児数

	定員	組数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳児	6	1	3	3	4	5	5	6	6	6	6	6	6	6	62
1歳児	9	1	9	9	9	8	9	9	9	9	9	9	9	9	107
2歳児	10	1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
3歳児	10	1	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	135
4歳児	12	1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	147
5歳児	13	1	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
計	60	6	56	56	57	57	58	59	59	59	59	61	61	61	703

入退所状況

6月1日 0歳児 1名入園 9月1日 0歳児 1名入園 12月1日 0歳児 1名入園
 7月1日 0歳児 1名入園 10月末 1歳児 1名退園 1月4日 3歳児 1名入園
 6月末 1歳児 1名退園 11月1日 1歳児 1名入園 1月4日 4歳児 1名入園
 8月1日 1歳児 1名入園 11月30日 0歳児 1名退園

(2) PRの方法

- ・ホームページで園運営を閲覧し、関心を持って園見学に来られる。園児たちの笑顔や、活動内容(行事、子育て支援、専任講師によるとりくみ)を説明することによって、いろいろな体験をしていることに感心され、是非入園したいという希望がある。在園児の保護者の方より話を聞いて来られる事も多々ありふじの子ホールにも興味を持って来られる方がある。

(3) 入園の方法

- ・入園申込書を藤井寺市保育幼稚園課に提出。入園決定後当園で保護者面談をし、アレルギー体質、健康面を詳細に懇談する。特にアナフィラキシーは、命にかかわりますので委託業者の管理栄養士の方にも参加してもらい詳細なうち合わせと同時に乳児の離乳食、ミルクの量・時間などの話し合いを持った。その他こだわりの食事内容を持っておられる方にも時間を取り、納得できる話し合いができ、互いに子どもの健康、食べる楽しみを優先に考えた。

2. 教育、研究の推進

(1) 保育目標

- ・「子どもは宝」の基本理念をどのように理解し、子どもと接することができるのかレポートを提出し、全職員内容をコピー、職員会議で討論した。理事長先生からは、“この年令では無理ではないか”とか副園長先生からも“小集団所属感の有無”と“私とあなた”のくくりで全職員の子どもは宝のとらえ方を示唆していただいた。一度の会議では理解できにくいが何回かくり返し話し合いをすることによって、“子どもは宝”の基本理念が分かってくるのではないかとと思われる。

(2) 教育課題

- ・年3回の指導計画、園評価を話し合い、保育が子どもにとって十分満足感を味わえる生活が送れるよう検討できていた。

(3) 研究課題

・今年度は“音楽”の充実を図り、保育者の専門性及び保育の質の向上にとりくんだ。またいろいろな楽器に触れ、親しみを持って心身の生活リズムを豊かにしていく事によって新しい発見があった。リトミック講師の藤田先生のピアノ曲といろいろな小道具を使っのリズムのとり方を参考に保育者の手作り楽器やリズム打ちの楽しさを実感し生活発表会につなげていくことができた。

3. 職員構成

	令和3年度	備考
園長	1	統括園長
副園長	1	
主任保育士	1	産休(8月より)
保育士	9	
保育士(パート)	5	内1名 看護師
事務長	1	
事務員(パート)	1	
調理担当	3	業者委託

4. 施設、設備の整備

(1) 教育研究機器、備品

・ふじの子ホール使用の体育用具(鉄棒) ・屋上遮光ネット改装

(2) その他

・防災用飲料水と非常食 ②2階テラス用カーテン

・AED 設置(使用の講習を受ける) ・空気清浄機 ・職員休憩室改装

5. 収支計画

令和3年度補正予算案参照

6. その他

(1) 早朝7時から7時30分、夕方18時30分から19時30分の延長保育の実施で保護者の勤務の安定がはかれている。

(2) 子育て支援の活動内容は、コロナ禍で中止を余儀なくされて活動が不十分であった。

(3) 絵画、体育、リトミック、英語、茶道講師の招へいにより、いろいろな環境の中で味わう心地良さは子どもたちの情緒の安定を保ち、子どもの福祉の充実につながった。

(4) 朝の会の充実により心身を整えることが出来、春夏秋冬の野菜の成長を知り収穫物を給食に取り入れ新鮮な野菜がおいしく食べやすいことに気づけるようになった。

(5) 会議(理事長懇談、四者会議、リーダー会議、クラス会議、役割分担会議、個人懇談)の充実を図りコロナ禍での2園間の交流をスムーズにし、コミュニケーション能力を高めることができた。

(6) コロナ禍の蜜を避けながらバンブーダンス、大縄跳び、ケン玉、ドッジボールをおもいきり体を動かし運動能力を高めていった。
また、前半期は、ふじの子ホールを2園間の交流の要とし子どもの活動量が増し、様々な欲求を満たし、生命保持、情緒の安定を図ることができた。後半期は感染症予防対策を行ない各クラスのクラスターは発生しなかったが、保護者の方々の協力も得られたことが大変ありがたく大きく保育変更なく取り組み始めたと感じられた。

- (7) 薄着の励行により、健康、身体の発達を促すことが保護者に伝わり、理解してもらえらることで“ふじの子スポーツ力くらべ”でより一層、多様な取り組みを通して、判断力、表現力を身に付けてきたのではないかと思われる。
- (8) 増地講師の絵画指導で、保育者に実践体験をさせていただき、人間性のプロフェッショナル化を培うことができた。
- (9) 保育者自身にも予め伝達で自ら考え取り組める計画によって防災知識を高め非常食の活用、避難経路の確認・AED活用の仕方を知ることができた。
- (10) 課外授業(絵画・体育)の充実を図り、園児の未知の能力が高まり保護者の育児不安をやわらげることができた。

。コロナ禍で保育の取り組み方の変更や保護者の協力を一斉メール送信を通して協力してもらえることができた。

（川）
会
議

令和3年度 事業実績報告書

社会福祉法人 窓 ふじの子第二保育園

1. 園児の確保

(1) 園児数

	定員	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳児	8	1	5	5	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	85
1歳児	11	1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	141
2歳児	12	1	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
3歳児	13	1	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
4歳児	15	1	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	129
5歳児	16	1	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
計	75	6	67	67	69	69	69	69	69	70	70	68	68	68	823

入退所状況 6月1日 0歳児 入園2名
 11月1日 0歳児 入園1名
 12月5日 4歳児 退園1名
 12月31日 1歳児 退園1名
 12月31日 0歳児 退園1名
 4年1月1日 0歳児 入園1名 柏原市より

(2) PRの方法

- ・ホームページで園運営を閲覧し、関心を持って園見学に来られる。園児たちの笑顔や、活動内容(行事、子育て支援、専任講師によるとりくみ)を説明することによって、いろいろな体験をしていることに感心され、是非入園したいという希望がある。在園児の保護者の方より話を聞いて来られる事も多々ありふじの子ホールにも興味を持って来られる方がある。

(3) 入園の方法

- ・入園申込書を藤井寺市保育幼稚園課に提出。入園決定後当園で保護者面談をし、アレルギー体質、健康面を詳細に懇談する。特にアナフィラキシーは、命にかかわりますので委託業者の管理栄養士の方にも参加してもらい詳細なうち合わせと同時に乳児の離乳食、ミルクの量・時間などの話し合いを持った。その他こだわりの食事内容を持っておられる方にも時間を取り、納得できる話し合いができ、互いに子どもの健康、食べる楽しみを優先に考えた。

2. 教育、研究の推進

(1) 保育目標

- ・「子どもは宝」の基本理念をどのように理解し、子どもと接することができるのかレポートを提出し、全職員内容をコピー、職員会議で討論した。理事長先生からは、“この年令では無理ではないか”とか副園長先生からも“小集団所属感の有無”と“私とあなた”のくくりで全職員の子どもは宝のとらえ方を示唆していただいた。一度の会議では理解できにくい為何回かくり返し話し合いをすることによって、“子どもは宝”の基本理念が分かってくるのではないかと思われる。

(2) 教育課題

- ・年3回の指導計画、園評価を話し合い、保育が子どもにとって十分満足感を味わえる生活が送れるよう検討できていた。

(3) 研究課題

・今年度は“音楽”の充実を図り、保育者の専門性及び保育の質の向上にとりくんだ。またいろいろな楽器に触れ、親しみを持って心身の生活リズムを豊かにしていく事によって新しい発見があった。リトミック講師の藤田先生のピアノ曲といろいろな小道具を使ったのリズムのとり方を参考に保育者の手作り楽器やリズム打ちの楽しさを実感し生活発表会につなげていくことができた。

3. 職員構成

	令和3年度	備考
統括園長	1	
園長	1	
主任保育士	1	
保育士	9	1名7月退職 1名8月より産休
保育士(パート)	11	うち1名看護師 1名10月退職 1名1月退職
事務長	1	
事務員(パート)	1	
調理担当	3	業者委託

4. 施設、設備の整備

(1) 教育研究機器、備品

- ・ふじの子ホール使用の電子ピアノ・カーテン・靴箱を整えたことにより使用密度が高くなった。
- ・視力検査機・聴力検査機を保育者自身使いこなすことにより子どももリラックスしてできた。

(2) その他

- ・ゴザ、防災シューズ園児数十分そろえられたので避難訓練が全員参加の体裁が整えられた。飲料水は、茶道に使い新鮮な飲み物が提供できるようにした。非常食は、散歩の時のおやつにしたり 防災訓練の時に実践して食べたりして期限切れにならないように注意している。

5. 収支計画

令和2年度補正予算案参照

6. その他

- (1) 早朝7時から7時30分、夕方18時30分から19時30分の延長保育の実施で保護者の勤務の安定がはかれている。
- (2) 子育て支援の活動内容は、コロナ禍で中止を余儀なくされて活動が不十分であった。
- (3) 絵画、体育、リトミック、英語、茶道講師の招へいにより、いろいろな環境の中で味わう心地良さは子どもの情緒の安定を保ち、子どもの福祉の充実につながった。

- (4) 朝の会の充実により心身を整えることが出来、春夏秋冬の野菜の成長を知り収穫物を給食に取り入れ新鮮な野菜がおいしく食べやすいくことに気づけるようになった。
- (5) 会議（理事長懇談、四者会議、リーダー会議、クラス会議、役割分担会議、個人懇談）の充実を図りコロナ禍での2園間の交流をスムーズにし、コミュニケーション能力を高めることができた。
- (6) コロナ禍の蜜を避けながらバンブーダンス、大縄跳び、ケン玉、ドッジボールをおもいきり体を動かし運動能力を高めていった。
- また、前半期は、ふじの子ホールを2園間の交流の要として子どもの活動量が増し、様々な欲求を満たし、生命保持、情緒の安定を図ることができた。後半期は感染症予防対策を行ない各クラスのクラスターは、発生しなかったが保護者の方々の協力も得られた事が大変ありがたく大きく保育変更なく取り組めたと感じられた。
- (7) 薄着の励行により、健康、身体の発達を促すことが保護者に伝わり、理解してもらえらることです
“ふじの子スポーツ力くらべ”でより一層、多様な取り組みを通して、判断力、表現力を身に付けてきたのではないかと思われる。
- (8) 増地講師の絵画指導で、保育者に実践体験をさせていただき、人間性のプロフェショナル化を培うことができた。
- (9) 保育者自身にも予め伝達で自ら考え取り組める計画によって防災知識を高め非常食の活用、避難経路の確認・AED活用の仕方を知ることができた。
- (10) 課外授業(絵画・体育)の充実を図り、園児の未知の能力が高まり保護者の育児不安をやわらげることができた。
- 。コロナ禍で保育の取り組み方の変更や保護者の協力を一斉メール送信を通して協力してもらえることができた。